

## 8 リハビリテーション病院フットケア専門外来におけるナースケアの実態

病院看護部 外来・入所者診療室 中島美香 蛭田利佳 浅利英子 會田人美 田嶋千秋

近年医療制度の変化と共に、看護を取り巻く環境が大きく変化してきた。診療報酬を算定できる看護行為が認められ始め、看護外来、専門外来が増加しつつある。糖尿病フットケアは看護実践報告やケア方法が確立されているが、障害者のフットケアは報告も少なく確立されていない。障害者に行われているケアの実態を提示し、今後の障害者のフットケアの一助とする。

I. 研究目的：フットケア専門外来でのナースケアの実態について報告する。

### II. 研究方法

対象：A 病院のフットケア専門外来を開設した平成 20 年 7 月から平成 22 年 6 月までの全受診者のうち、無作為に 93 名（延べ 131 例）を抽出し調査対象とした。データ収集：外来診療録から基礎データ、糖尿病有無別、麻痺の状態、受診目的、受診回数、ナースケア内容のデータを分類し、データは統計ソフト SPSSver. 19 を用い全ての項目の記述統計を行った。

### III. 研究結果

調査期間中にナースケアを受けた 131 例は全体の 23.8%であった。ナースケアを受けた男女の割合は女性の方が 72 例 55.0%とやや多かった。年齢階層別では 40～59 歳が 69 例 52.7%、60 歳以上が 52 例 39.7%であった。麻痺別では四肢麻痺 51 例 35.2%、片麻痺は 31 例 33.3%、対麻痺 16 例 14.5%、麻痺のない人は 28 例 16.64%であった。ナースケアの内訳は、初回受診時の目的別にみると、爪に対する相談は 100 例 41.4%、足に対しての相談は 62 例 25.0%、靴・装具の相談は 6 例 2.9%だった。そのケア内容をみると、処置では足保清 117 例 89.3%、爪切り 119 例 90.8%、爪やすり 111 例 84.7%、爪垢除去 110 例 84.0%だった。指導では爪切り指導 97 例 74.0%、足の洗い方指導 86 例 65.6%、保湿指導 63 例 48.1%、靴・靴下指導 54 例 41.2%、軟膏指導 42 例 32.1%だった。麻痺別にケア内容をみると、四肢麻痺、片麻痺には足保清、爪切り、爪やすり、爪垢除去、角質削り・保湿の処置の割合が高い。また、爪切り、足の洗い方、保湿、靴・靴下、軟膏に対しての指導の割合も四肢麻痺、片麻痺が高い。足の状態別に行われているケア内容は、足の機能感覚障害及び足の血流障害の人に対して「ストッキング指導」や「靴・靴下指導」が行われている。

### IV. 考察

受診目的が爪、足の相談の場合はナースケアが必要になる割合が大きく、靴・装具の相談でも、足・爪のナースケアが必要な例もある。受診目的に捉われず、ナースケアのニーズがあった。四肢麻痺と片麻痺は、上肢に障害があり、自己でのケアが困難であるため、ナースケアの割合が大きいことが考えられる。四肢麻痺、対麻痺は運動麻痺、感覚麻痺、血管運動機能障害があり、痛みや違和感を感じにくい。傷の発見が遅れ、下肢の浮腫によって傷ができやすく、易感染状態となることから足病変リスクがある。そのため、患者が足の観察方法や正しいケア方法を熟知し、ケアを他者へ依頼できるように、看護師は指導を行う必要がある。

V. おわりに：患者が適切なケアを他者へ依頼できるように、看護師は継続的なナースケアを行うことが必要である。これは今後フットケア専門外来の患者数が増加する可能性を示唆している。ケア目的の患者に対応できる体制づくりを含めフットケア専門外来の充実を図る必要がある。